



①開墾前
雑草が生えているだけでなく、石もゴロゴロしていた。



②開墾後
取り組み初年度は開墾にほぼ1年を費やした。



⑥ラズベリー加工
ラズベリーを利用したお菓子作りも実施。

くだもの楽校
活動内容



③ラズベリー植付
開墾が進むにつれ、作付面積も広がっている。



⑤ラズベリー収穫
5月下旬から10月までの長い期間の収穫が可能。



④除草・剪定
開墾の次に大変な作業であり、現在効果的なやり方を検討中。

就農支援も実施！



飯豊町農村環境保全指導員
田中 俊昭 さん

- ・東京都出身
- ・13年前に飯豊町へ移住し、農業に従事。
- ・平成28年から農村環境保全指導員となる。
- ・指導員となる前から遊休地の開墾活動等に携わり、着任後は前任者に続いて、地元の子供のほか、東京からも人を受け入れ、農業体験を実施している。



新・農業人フェア in 東京都
自身が東京から移住し、新たに農業を始めた経験から、就農支援活動にも携わっている。



遊休地をラズベリー畑へ

飯豊町の農村環境保全指導員、田中俊昭さんは13年前に東京から移住された方で、町内の添川地区を中心に活動している。主な活動内容として、木いちごのラズベリーの植付けから加工までの体験活動を行っている。

児童センターの隣接地が長期に渡って荒地となっていたことが課題となっていて、その有効活用ができないかと考えていたところ、農協青年部からラズベリーを植えてみては、との提案がきっかけで取り組みが始まった。

アシが繁茂し遊休地になっていた土地を少しずつ切り開き、現在は10aほどの畑にのみがえった。

食農教育として、児童センターの子供たちをはじめ、保護者や地域住民も一緒にラズベリーの植付けから収穫、加工までを楽しんでいる。体験を通してラズベリーに興味を持った方が自宅でも植え始めたりするなど田中さんの活動が地域の中でも広まってきているとのことだ。

今後は、町内で増えてきている遊休地を対象に活動エリアの拡大を考えており、ラズベリーを中心とした果樹の振興につながれば良い、と抱負を語ってくれた。



ラズベリーの果実
ラズベリーは雪に強く、栽培も比較的容易とのことだ。



加工品(シロップ)